

2022年2月28日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 営業状況

・放送収入

今年度の第3四半期（2021年4月～12月まで）の放送収入は前年同期に比べて12.6%増収となった。コロナ禍の中でも順調に回復してきたと思うが、今後コロナ前の水準を凌駕して、放送収入の拡大を図っていく方針だ。

・放送外収入

昨年末公開した映画「あなたの番です 劇場版」は興行収入20億円目前で大ヒットとなっている。一方で1月、2月に公開した「ノイズ」「鹿の王」は苦戦している。全国各地でまん延防止重点措置となり、シニア層が映画館へ足を運ばない影響を受けたと考えている。

1月末に横浜のぴあアリーナで行ったBE:FIRSTの「THE FIRST FINAL」は全公演満席で、Huluでの配信も9万2000件と大成功した。また昨日、新しいオーディション「YOSHIKI SUPERSTAR PROJECT」を発表した。どんなグループがデビューするか、ご期待ください。

2. 質疑他

Q. 2022年の抱負

A.

2021年度の経営方針と、20年11月に発表した「新しい成長戦略」を突き進めしていく。コロナ禍を乗り越える事業推進を行い、またコロナ後を見据えて、デジタル事業の加速的な取り組みをし、様々なコンテンツを届けていく。視聴率三冠王を維持すると同時に放送収入のシェアを高めていきたい。

グループ再編については、グループ子会社の経営の効率性を上げ、再編を通してグループ全体の総合力を底上げしていく。

Q. 北京冬季五輪について

A.

スピードスケートをはじめとする注目競技を生中継でき、視聴率も上々だった。JC（ジャパン・コンソーシアム）に上重アナ、佐藤（義朗）アナを派遣し、上重アナはスピードスケート1000mで高木美帆選手を、佐藤アナはジャンプ男子ノーマルヒルで小林陵侑選手の金メダルを実況出来た。辻岡アナも公式マスコット「ビンドウンドゥン」好きとして評価して頂き、人気者になったことも幸せな材料だった。

Q. 「TVer」でのライブ配信について

A.

日本テレビが持つコンテンツをより多くの視聴者に届けたいとの思いで始めたが、しっかりとした手応えを感じている。

(了)

杉山 美邦 代表取締役 社長執行役員
福田 博之 取締役 常務執行役員
沢 桂一 取締役 執行役員